

学校教育目標		志高く 未来を拓く 高西中教育 ～ 自立・協働・創造 ～															
a ミッション		中学校区で取り組む「志プロジェクト」の推進				a ビジョン		自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成				尾道市立高西中学校					
評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善計画					
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		1月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					達成値	達成値	達成値	達成値				イ	ロ	ハ			
志高く 学びは深く 出会いが広く 心一つに未来をつくる	主体的な学びの実現	①生徒の主体性を引き出す単元構想・授業設計 ・逆向き単元構想図・指導案の作成 ・多様な選択ができる「自己決定」の機会の設定 ・学びを「自己調整」する機会の設定 ・導入の工夫 ②生徒の実態分析にもとづく、個別最適な手立ての工夫 〈実態分析〉 ・学力分析の実施 ・支援を要する生徒に対する手立ての計画 〈個別最適な手立ての工夫〉 ・見通しのある授業【高西中授業スタイルの徹底】 ・授業のUD（ユニバーサルデザイン） ③「いきかたナビゲーション（『いきナビ』）」の実施 ・キャリア・ログ「学びの地図」の活用 ・「なりたい自分」に近づくための理想とするロールモデルとの出会いの設定（キャリア講演会）	①生徒アンケート「自分から進んで学習に取り組んでいる」における肯定的評価	80%	67%			89%	B	○主体性を引き出すために授業研修を始めとして、多様な選択肢から自己決定する機会を多く設定し、成果や課題を議論することができた。校内研修にて、導入の工夫について議論し、その必要性について確認することができた。しかし、自己決定し、自ら学習したあと、正しい理解ができていないか不安になったり、集中力を欠いたりする生徒もいた。生徒が学習に対して前のめりになるような、動機付けができていない。	3	イ	ロ	ハ	○いろんなことを研修されている。子どもたちをいかに導くかは教員の質。先生の雰囲気が良いと子どもたちの雰囲気もよくなる。 ○かつての習熟度別授業が今はひとつの教室の中で行われている。その工夫等はとても良いと思う。また、学校全体でやるのが若い先生を育てる人材育成や技術の継承という意味でも有効である。単元内自由進度学習の挑戦者が増えている等、全体でやろうとしていることが分かる。 ○生徒の主体性を引き出す単元構想、授業設計について、とても良い取組だと思えます。生徒全体のスキルアップが期待できて楽しい授業になると思う。 ○アンケートで、子どもの学習意欲に対する項目の結果が低かったが、これは保護者（家庭）と協力して取り組む必要があると思う。	①明確な評価基準や評価方法を決め、生徒が学びを実感できるようにする。生徒が必然的に学習にのめり込むような問いや、学び取るための素材を準備する。 ②手立てのシート（手立ての計画の順序）を事前に配布し、活用を促す。個別の指導計画等の実態把握に基づいた手立てが指導案の中に盛り込まれていることがチェックし、声かけを行う。 ③計画しているキャリア講演会と平素の教育活動をしっかりと関連性をもたせながら進めていく。また、「学びの地図」については書くことが目的にならないように、普段の活動からしっかりと活用していけるようにする。	
			②生徒アンケート「自分の特性や達成度、興味・関心に合わせて学習活動に取り組む」における肯定的評価	85%	83%			97%	B	○個別最適な手立て事後協議の中でも、どのような手立てが適切なかの議論が盛んに行われ、授業のUDの考え方が定着しつつある。しかし、個別の指導計画や、これまで実践した、手立てシート（手立ての計画の順序）を活用し切れていない。							
			①②学力調査（1・2学年は標準学力調査 3学年は実力テスト）を全国平均	+2	1・2年 -2.3 3年 +0.7					C							○基礎・基本的な学力の向上について 1・2年生は、基礎・基本的な学力が身につけていないことが見て取れるため、学習意欲の向上を根本として粘り強い学習ができるよう指導する必要がある。3年生は、数学、英語といった積み上げの教科について、3年間の復習を行っていくことが必要である。
			③生徒アンケート「自分の夢や目標、なりたい自分に近づくために自ら進んで努力することができている」における肯定的評価	75%	73%			97.0%	B	○キャリア教育の充実と拡充に向けてキャリア・ログ「学びの地図」による個人の目標設定と、その実現に向けて日々の活動や行事等と関連付けながら「なりたい自分」へと近づけるよう取組んだ。また、キャリア講演会の計画的な実施や尾道で活躍する方の話を聞く機会を通して、社会に開かれた教育の実現と郷土愛の醸成に繋げることができた。							
生徒指導の充実	お互いの個性を認め合える集団の実現	①生徒にとっての安心・安全な居場所づくり ・笑顔で挨拶を交わせる集団の育成 「モデルとしての教師」 「生徒会活動・部活動を通した指導」「肯定的評価・フィードバック」 ・自己肯定感の涵養 「アセスと学級力アンケートによる生徒支援」 ・SSR「ほっとルーム」の活用 「相談する力」の育成 「自分の強みを知り生かす力」の育成 ②学校行事、生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 ・生徒が主体となる自治的活動の推進 「リーダー、フォロワーの育成」 「生徒の笑顔、元気を引き出す仕掛け」 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にしたい取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」	①生徒アンケート「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価	90%	95%			105%	A	○安心・安全な居場所づくりに向けた風土の醸成アセスの「教師サポート」における学校全体の平均が60%である。生徒との間に良好な関係を築くことができてきたことがわかる。また、「友人サポート」においても学校全体の平均が60%であり、安心・安全な居場所づくりに向けた風土を醸成できていると考える。しかし、アセスや学級力アンケートからも課題のある生徒が一定数いることから、カウンセリングや人間関係づくりなど個別の支援を計画的・継続的に仕組んでいく必要がある。 ○個別の生徒支援の充実 生徒支援委員会の計画的な開催やSSRほっとルームにおける個別の生徒支援の充実を図ることができた。ほっとルーム担当者各教員の連携を図りながら取組を進めていきたい。	3	イ	ロ	ハ	○いきかたナビゲーションの講演会も、郷土愛が育まれ、とても良い取組だと思える。尾道の身近な人だととても魅力を感じ、郷土愛にもつながる。講師選びが大変だと思うが、継続していただきたい。 ○SSR（ほっとRoom）は、学校にきにくい生徒たちが居場所を見つけることができ、制限や制約のないことで、ここで救われている子どももたくさんいる。コロナで登校が増える中、ほっとRoomはとても良いと思う。家から一歩出てSSRに来て、先生達に守られつつ、社会に出るための準備をすることは大切なことで大変ありがたい。ただ、専門家がいないから、小学校から児童が来ているのに小学校の先生が来なかったりする現状は環境としてどうなのかな。試行錯誤の中で、先生がつぶれないようにしてほしい。 ○中学校は生きる力をつける場で、卒業時に社会に出る子もいれば上の学校に行く子もいる。それを選択できる力をつけるような取組を上手くやられている。社会に対応できる人間をつくるのが大切である。		
			②各行事への生徒満足度（肯定的回答）	90%	98%			108%	A	○自分たちで創る学級や行事などの自治的活動の充実 学級力向上プロジェクトや行事における目標設定など生徒一人一人が当事者意識をもって日々の生活や活動を行えるよう取組を進めた。「静まる時は整然と 強くなる時は思い切り」を合言葉に、「挑戦の機会」の充実と「感動体験」を共有することができた。 体育大会は、3年ぶりに全学年一斉で開催したが、縦割り種目・学年種目においても、各担当教員が計画的に生徒リーダーを指導するとともに、各担当が生徒たちのがんばりに対して、継続して肯定的評価を与えることで、リーダーとフォロワーを育成することができた。							
信頼される学校づくり	働き育の質を高め、現る	①学校教育目標（最上位目標）の実現に向け、自己エンジンをもちた役割を遂行する【自立】 ②一人一人が知恵を出し合い目標実現に向けてチームで協力する【協働】 ③新たな価値（改善策）を提案する【創造】	①『教職員アンケート』において、「学校教育目標（最上位目標）の実現に向けて、役割（校務分掌）を遂行している」と回答している教職員の割合	90%	93%			103%	A	○学校経営会議等を通じた、主任主事の人材育成 毎週実施の経営会議の内容を工夫し、軽重をつけることで、主任、主事の負担軽減を図るとともに業務の効率化を図った。 ○学校経営への参画意識の向上 年度始めの面談等において「学校組織目標」と「個人目標」のつながりを意識させるとともに日々の実践の成果等について一人一人に積極的にフィードバックした。	3	イ	ロ	ハ	○教職員の熱心な姿が伝わる。単元内自由進度学習やSSR（ほっとRoom）等の新たな取組が素晴らしい。PTAの協力もきめて一丸となり頑張ってもらいたい。今後がとても楽しみである。 ○子どもが相手だから、おろそかにもできないし、大変だと思う。部活動も外部にまかせる方法もあると思うが、学校としてというより、教育界としてやっていくべきだ。 ○働き方改革は先生達の問題ではない。先生になりたいと思われるようになっていけばよい。 ○大変な取組を一丸となってやられていることが、働き方改革にもなるし、お互いに学び合うことで成長にもなるし、子どもたちにとっても勉強になる。働き方改革の数値が下がらないようにしてもらいたい。		
			②『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」と回答している教職員の割合	90%	100%			111%	A	○主任、主事によるリーダーシップの発揮に向けた支援 学年や分掌において、主任、主事が見通しと自信をもってリーダーシップを発揮できるように経営会議で有意義な協議ができた。 ○各プロジェクトが協働的、創造的に機能するための働きかけ 体育大会や生徒会活動の取組を通して、教員4年目となる実行委員長や主担当のリーダーシップの下、教職員が創意工夫し協働する姿が多く見られた。							
			③『学校の働き方アンケート』において、「新たな取組を行う場合、スクラップ&ビルドを行っている」と回答している教職員の割合【R4：48%】	70%	85%			121%	A	○校務分掌表の大規模改編【業務量の平準化及び機能性の重視】 主任、主事への業務量の偏りの払拭並びにチームによる業務遂行に向けて、校務分掌表を大幅に改めた。 ○行事の精選並びに異の向上（スクラップ&ビルド） 「試験期間中の採点時間確保」「夏季休業期間中の校内研修日縮減」「水、金曜日の早期退校の促進」等、積極的に業務改善を図った。1学期保護者アンケート「高西中学校に通わせてよかった」という肯定的回答 92.8%							

【自己評価 評価】  
 A：100≦（目標達成）  
 B：80≦（ほぼ達成）<100  
 C：60≦（もう少し）<80  
 D：【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。  
 （できていない）<60